

岐阜大学の将来ビジョン(森脇ビジョン)

[2025年に向けて]

2014年5月

学び究め貢献する岐阜大学を
「人が育つ場所」
という風土の中で実現する



岐阜大学は2004（平成16）年に国立大学法人となり、以来、6年を一つの期間として改革を進めてきました。第1期は2004（平成16）年から、第2期は2010（平成22）年から、第3期は、2016（平成28）年4月から始まりました。また、2025年に向けての10年先を見据えた計画を、この「岐阜大学の将来ビジョン（森脇ビジョン）」に示しています。

→ 2018年9月

「地域活性化の中核拠点であると同時に、
強み・特色を有する分野において
全国的・国際的な教育・研究拠点の形成」
を目指します。

取組

- 地域連携の基盤に立った拠点機能の強化（パースセンターの県内配置、手術棟の建設、重粒子線治療施設の導入）
- 臨床研修体制の強化と自治体等との連携による地域医療人材の育成
- 臨床研究と創薬・新医療技術開発の推進

大学病院

高度医療拠点としての機能強化と地域医療への貢献

教育推進・学生支援機構

教育

高度な専門職業人の養成
地域単位での Teach for Communities

取組

- 新教員組織（教育研究院）の立上げ
- 理系修士課程（自然科学技術研究科）の設置・博士課程の改組とデザイン思考教育・マネジメント教育の導入
- 経営／マネジメント教育部門の立上げ
- 機関別大学認証評価
- 教員養成課程の機能強化（学部定員見直し、推薦入試導入、教職大学院の充実）
- 社会人の学び直し教育への環境整備（ME養成のための施設整備）
- 医学教育共同利用拠点の機能強化と世界水準の医学教育開発の推進（フェローシップ立上げと学位（修士）化）
- 医学教育の充実（国際認証、看護学科定員見直し、医療過疎対策）
- 獣医学博士課程の再編（連獣の解消、共同獣医専攻立上げ）
- 全学共通教育における英語教育の充実
- 入試方法の改善
- 教育推進・学生支援機構による教育の質保証システムの向上及び多様な学生への学修等支援の推進

グローバル推進本部

国際化

地域に根ざした国際化と
成果の地域還元

取組

- グローバル人材養成プログラムの整備充実（南アジア・ASEANを中心とした地域における海外オフィス・共同実験室の展開）
- 日本人学生と留学生の混在型教育の充実
- 海外協定大学とのJoint Degreeプログラム開始
- 多文化共生型による国際教養コースの設置
- 教員海外研修、事務職員海外実務研修の強化
- 留学生の就学・就職支援（インターンシップ）強化（東海コンソーシアム化）
- 留学生ネットワークの整備
- 諸団体、他大学とのグローバル事業共同展開

研究推進・社会連携機構

研究

教育の基盤としての
質の高い研究を展開

取組

- 生命科学／医薬獣／iCeMS研究拠点（生命の鎖統合研究センター）の形成
- 次世代エネルギー研究拠点の形成
- GUコンボジット研究センターの立ち上げ／スマート金型開発拠点の形成
- 流域圏科学研究センターの拠点申請
- 水環境リーダー学位プログラム化
- 研究推進・社会連携機構による支援体制の強化

情報連携統括本部

広報企画室

大学本部、学長室

人事・給与制度改革

取組

- 多様な人材の登用と育成（女性幹部職登用、技術職員、高度専門職員の育成）
- 年俸制の導入
- 教員評価システムの検証・改善

IR室

地域協学センター

社会貢献

地域社会の
活性化に貢献

取組

- 岐阜県との連携による教育研究の推進と地域貢献（防災・減災センター事業の推進、岐阜県中央家畜保健衛生所・食品科学研究所のキャンパス内移転）
- COC事業とCOC+事業の推進（地域志向人材の育成・認証）
- 産官学連携事業による地域産業界への貢献を推進（東海（中部）コンソーシアム化、産学金官プロジェクト）
- ダイバーシティ戦略の県内展開

研究推進・
社会連携機構

ガバナンス改革

取組

- 大学全体としてのガバナンスの透明化、浸透
- 研究倫理をはじめとする法令遵守等に基づく適正な法人運営
- IR機能の活用による学内資源の再配分と教育研究組織の見直し

- 赤字…稼働中
- 青字…一部稼働中
- 緑字…準備中
- 黒字…計画中